

# 景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

## 非製造業の業況悪化に歯止めかからず

～需要低迷・個人消費の低迷続く～

【概況(全体)】3月分の県内景況は、業界全体の景況DI値が-38.7となり、前月調査と比較して3.8ポイント上回った。

内訳としては、製造業の一部業種において売上が増加したことから、製造業DI値は好転しているものの、非製造業は前年同月比で売上が減少している業種が目立ち、非製造業のDI値は平成24年8月以来の低水準となった。

なお、依然として需要や個人消費の低迷が続いており、県内景況には回復感が見られていない状況となっている。(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】  
 快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り △10以上 △30超 10未満  
 雨 △30以下  
 雷雨  
 【天気図の見方】  
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

【概況(製造業)】製造業の景況DI値は-37.5となり、昨年12月から続いた-50台から好転した。

繊維工業や機械金属、金属加工では、受注が活発な状況となっている。

一方、食料品や印刷では、原材料価格の高止まりの影響により、収益状況が悪化している。

【概況(非製造業)】非製造業の景況DI値は、-39.6となり、4ヶ月連続で悪化した。

運輸業では、荷動きのメイン品目(合板等)の動きが鈍く、稼働率は全般的に低調に推移している。

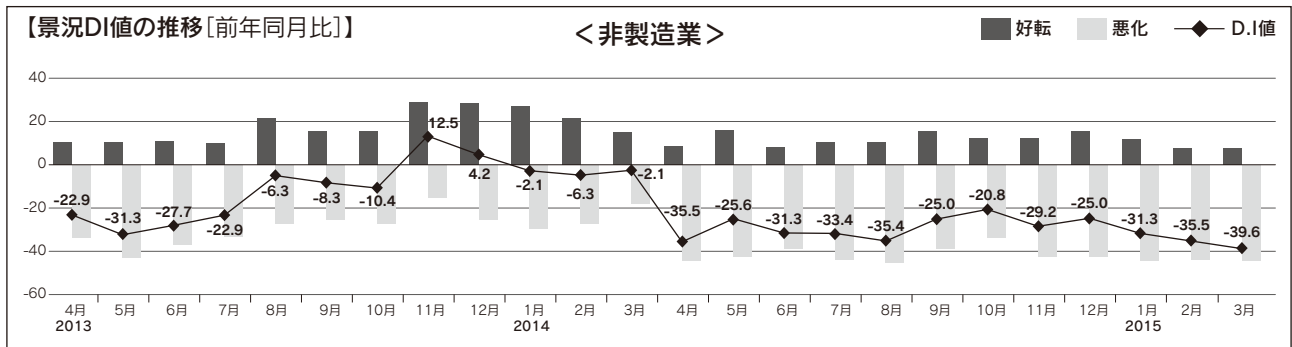
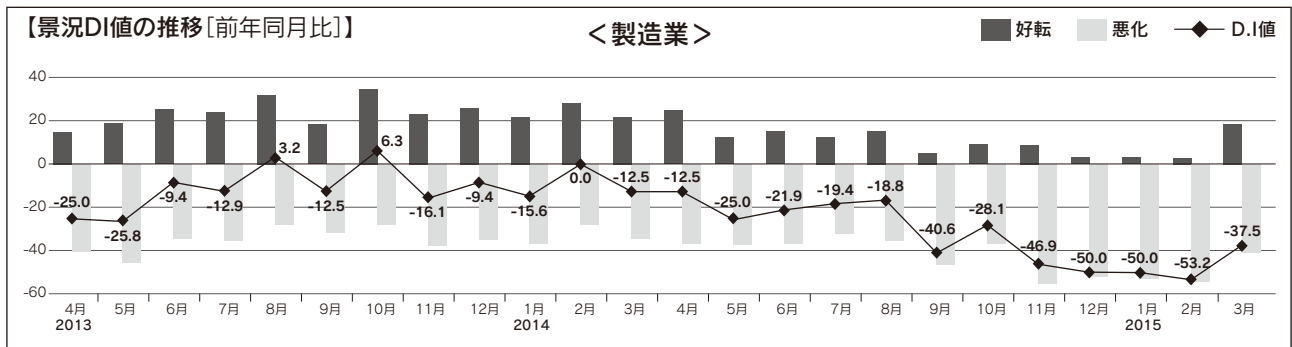
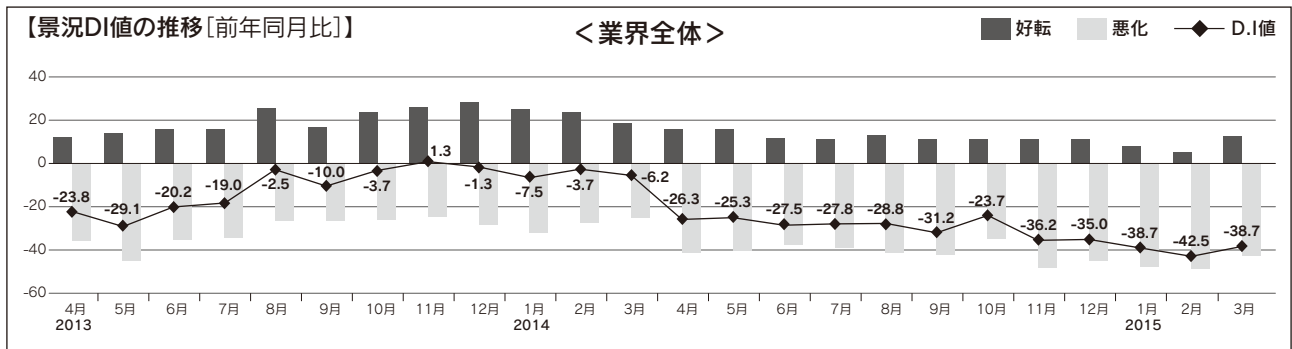
また、電気工事では、依然として人材不足が改善されていない状況となっている。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	県外品の進出が顕著で、売上について先行きの見通しが立たない状況にあり、収益状況も前年同月比で悪化しており、景気回復の実感はない。
繊維製品 (ニット)	3月の受注数量は、春夏物生産の最盛期となり、各社とも例年並みの受注を確保した。特に、インバウンド需要に対応したアパレルからの受注が活発である。
木材・木製品 (素材生産)	丸太の荷動きは、消費税増税前の駆け込み需要による反動減の影響が一段落したため、製材用原木は前月に引き続き品薄状態となっている。また、合板用原木については、在庫量が増加し前月に引き続き生産調整を行っているため、前年同月比横ばいで推移している。なお、生産調整は今年7月まで継続すると予測している。
印刷	依然として需要の低迷が続いており、年度末の需要期でも動きは非常に鈍い。また、低価格の受注状況の改善も進んでおらず、電気料の値上げ分がじりじりと収益を圧迫している。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	3月の出荷数量は、前年同月比で87.9%と低調に推移し、平成26年度の累計は776,013m <sup>3</sup> (前年比96.9%)となった。なお、平成27年度の出荷数量を740,000m <sup>3</sup> (前年比95.4%)と想定しているが、各地区の状況を考慮すると想定をさらに下回る可能性が高く、非常に厳しい年度になると思われる。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	3月は、徐々に物件等の動きが出てきているが、本格的な稼働は5月～6月頃と予測している。なお、見積物件は公共、民間ともに比較的多くなっている。
一般機器 (金属加工)	受注は相応に抱えており、業況は活発に推移している。しかし、原材料価格の高止まり等の影響から、収益面は依然として厳しい状況となっている。
その他の製造業 (漆器)	昨年12月～3月までは、冬期間により来館者が減少する時期だが、今年は体験教室の開催や各方面での宣伝効果等により、来館者は増加傾向で推移した。また、3月は退職時期で記念品の受注も多く、売上も僅かながら増加した。



【業界の声】 ～非製造業～

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (古紙)	販売価格は変わらないが、昨年4月の消費税増税以降、全国版新聞紙の発行部数の減少等により回収量の落ち込みが続いており、前年同月比で回収量全体が-13%(-94トン)、部門別では新聞が-10.6%(-40トン)、雑誌が-19.0%(-43トン)、段ボールが-8.1%(-11トン)と、それぞれ低調に推移した。
小売業 (石油)	ガソリンは1ℓあたり137円50銭で前月比4円10銭の値上がりで推移した。また、軽油は1ℓあたり121円50銭で前月比2円90銭の値上がり、配達灯油も18ℓで1,476円と前月比41円の値上がりとなり、値下がりが一服して以降、5週連続の値上がりとなった。
商店街	3月14日、当商店街内に盛岡及び仙台行高速バスの停留所が新設された。周辺住民からも利便性の向上につながり喜ばれ、来街者数が多少好転した。また、組合事務所1階スペースを地域交流スペースとして開放することとなり、使い勝手の良い“まち”となるべく今後アピールしていく。(大館市)
サービス (タクシー)	天候に大きく左右される当業界にとって、3月の早い雪融けと好天が業績に響き、全県における運行回数は前年同月比で87.9%、運賃収入は前年同月比89.9%と前月に引き続き低調に推移した。
建設業 (型枠工事)	3月の業況は、前月同様、芳しくない状況となっている。特に、この時期は過去の実績からも稼働率が低く雇用体制を維持しにくくなり、臨時休業を取る組合員も見受けられる。今後は、少しずつRC(鉄筋コンクリート)構造物が進捗するため稼働率は改善すると思われるが、長期間にわたる稼働率の上昇にはならないと予測している。
運輸業 (トラック)	昨年3月は、消費税増税前の駆け込み需要が大きく、荷動きも活発で車が不足する状況となっていたが、今年3月は荷動きのメイン品目である合板の動きが鈍く、稼働率は全般的に低調に推移した。なお、1月と2月には軽油単価は値下がりとなったが、ここに来て3月の軽油単価は値上がりとなっている。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	前年同月比で売上、収益状況ともに大きな変動はなく、景気回復の兆しを実感出来ない状況となっている。(中央地区)